

チリ マンダリンとクレメンタインの輸出が大幅に増加

EUROFRUIT 2023年12月4日

チリの柑橘類にとって良い年

チリの柑橘類の輸出は、2023年に48%増加した。チリ柑橘類委員会が発表した数字によると、過去3シーズンには平均16%であった。

合計39万5,889トンの柑橘類が輸出され、そのうち15.5%がクレメンタイン、43.7%がマンダリン、23.7%がオレンジ、17.1%がレモンであった。

同委員会のファン・エンリケ・オルトゥザール委員長は、輸出量の増加は同セクターにとって「前向きな驚き」であったと述べた。(以下「」は同委員長の発言)

「クレメンタインについては輸出量が非常に力強く回復し、マンダリンについては昨年の輸出量のほぼ2倍となった。レモンはやや回復し、オレンジも順調に仕上がったので、輸出量が力強く回復したシーズンであった。」

「市場は比較的安定しており、クレメンタインでは輸出量の増加にもかかわらず、市場の価格は一定の許容できる水準にとどまり、その観点からはシーズンはうまく終了した。」

市場に関しては、チリは今年のペルー産マンダリンの生産量の減少を利用することができた。オルトゥザール氏は、チリの柑橘類の最大の輸入国である米国で良いシーズンであったが、チリが来シーズンどのようなパフォーマンスを発揮するかはまだわからないと述べた。

「アジア市場や日本、韓国などの国々は、チリ産レモンにとって非常に重要である。日本は重要な市場であるが量は増えていないため、より高品質の果実を輸出できるように数量を調整している。非常に要求の厳しい市場なので、それに見合った高品質の果実は限られている。」

量が大幅に増加した一方、オルトゥザール氏は今シーズンは競争の激化など、多くの課題が生じたと強調した。

「競争がなくなったわけではないが、すべてがうまくいく有利な状況であった。しかし、市場には激しい競争があり、無限に成長し続けることはできない。」

オルトゥザール氏は、南アフリカのオレンジの出荷量は横ばいであるが、アルゼンチンのレモンの出荷量の増加がチリに大きな打撃を与えていると述べた。

同氏は、「今年第IV州(コキンボ州)ではクレメンタイン、レモン、マンダリンを灌漑するのにどうにか十分な水があった」ものの、チリでは干ばつが引き続き大きな問題であると指摘した。雨がほとんど降らなかったため、これからのシーズンは水が少なくなり、難しくなる。「干ばつに関して難しいシーズンになりそうだ。」

オルトゥザール氏は、春の厳しい寒さとエルニーニョ現象が来シーズンの作柄にどのような影響を与えるかはまだ不明であると付け加えた。

執筆者: マウラ・マクスウェル